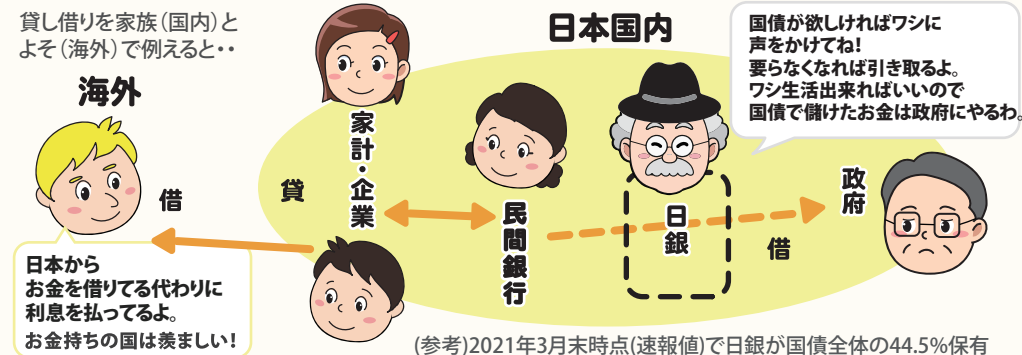
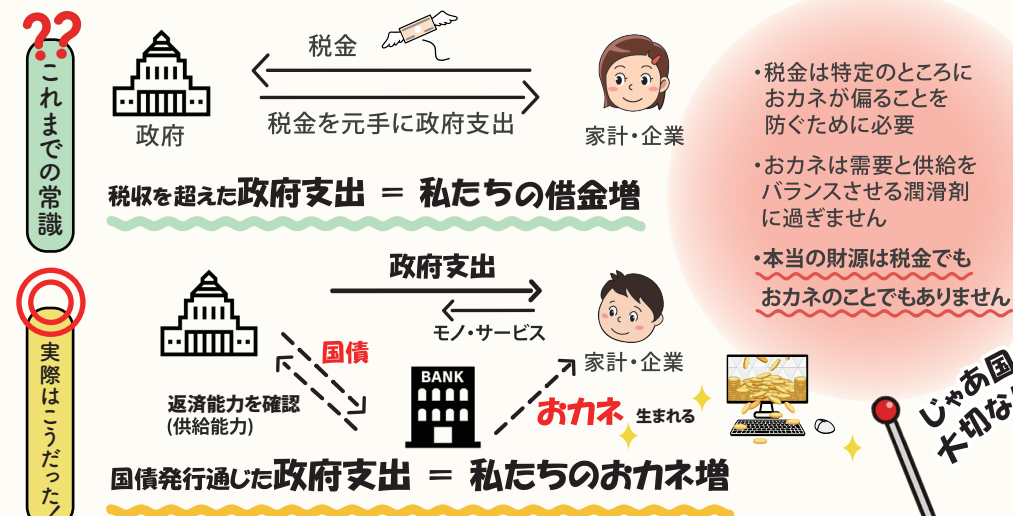


○ 政府のお金はどこから借りているのか？

よく「国の借金」と言いますが、国(政府)はどこからお金を借りているのでしょうか？
一言で言うと日銀(日本銀行)です。政府は日銀にしか取引口座を持っておらず、政府の借入れ窓口も日銀が担当しています。日銀は民間銀行に国債を買う分の資金を提供しています。
更には国債の最終的な引き受け手にもなります。これを誰が取り立てられるか考えていきましょう。



◎ 無から生まれるお金が 国の財源??



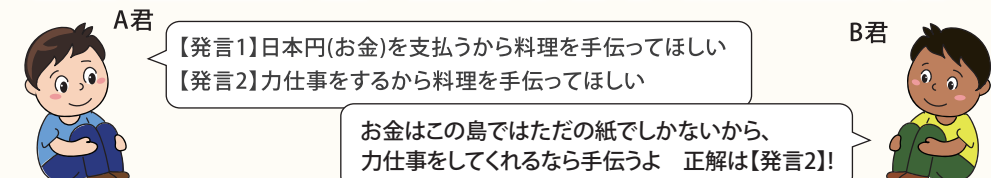
▶ ここがポイント! 現代では **おカネは無から生まれています**

それを**Money Creation**(信用創造)と呼びます。銀行は返済能力(供給能力)を認めて、通帳に〇〇〇万円と入力するだけ!おカネは無から生まれます。国債の利子は銀行サービスを支える政府支出。日銀保証の地方債や政府貨幣(硬貨)のように別の方法でもおカネは生まれます。

※ 無から生まれるお金(日本円)は国内の供給能力をもとに信用され使われます。続きます▶

01. お金とモノ・サービス 本当に必要なのは?

非常時には本当に必要なものが見えてきます。無人島に流され戻れなくなってしまったA君とB君の会話で考えてみましょう。A君はどちらの頼み方をすればB君に手伝ってもらえるでしょうか?



国同士の取引も
“モノ・サービス(財)を生み出す源”
「供給能力」によって
成り立っています。

供給能力の低い国は…輸入に頼り、海外収支(経常収支)は赤字、外貨不足、通貨安、物価高に…例えば外貨建ての国債で外貨得ておカネを何とかしてもモノ・サービス不足が続けば財政破綻、通貨暴落、ハイパーインフレへと悪化。

つまり、自国で供給出来る分しか、国民はモノ・サービスを得られないのです。
一方、日本は長年の高い供給能力のおかげで海外に資産まで持っています。

日本の現状(項目○、◎)と課題(項目02～)をそれぞれ見ていきましょう。

(参考)2020年の経常収支黒字額:17兆円/2020年末の日本の対外純資産:356兆円
財政破綻の心配のない自国通貨建て国債のみで資金調達が出来ている国は世界で日本含む数か国だけ

02. 使わないと本当の財源は減る

本当の財源である供給能力は需要がなければ、徐々になくなっていきます。
ここに日本の問題があります。低迷期には将来不安から貯蓄を優先するような悪循環が起き、供給能力の破壊は、儲けにくく公共性の高い産業から起こっていきます。



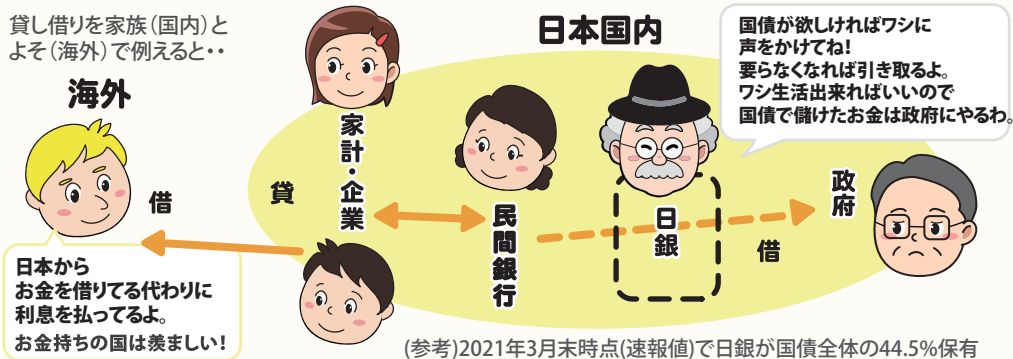
○ 政府のお金はどこから借りているのか？

よく「国の借金」と言いますが、国（政府）はどこからお金を借りているのでしょうか？

一言で言うと日銀（日本銀行）です。政府は日銀にしか取引口座を持っておらず、政府の借り入れ窓口も日銀が担当しています。日銀は民間銀行に国債を買う分の資金を提供しています。

更には国債の最終的な引き受け手にもなれます。これを誰が取り立てられるか考えていきましょう。

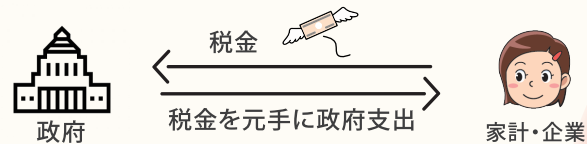
貸し借りを家族(国内)と
よそ(海外)で例えると・・



(参考)2021年3月末時点(速報値)で日銀が国債全体の44.5%保有

◎ 無から生まれるお金が 国の財源??

??
これまでの常識

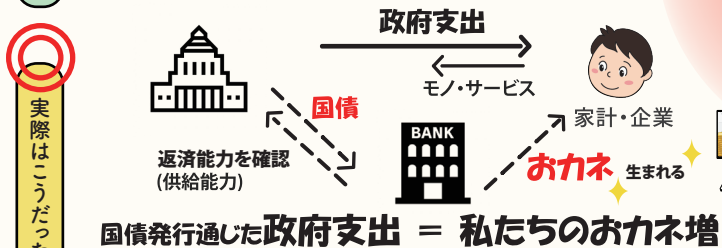


税収を超えた政府支出 = 私たちの借金増

- 税金は特定のところにおカネが偏ることを防ぐために必要

・おカネは需要と供給を
バランスさせる潤滑剤
に過ぎません

・本当の財源は税金でも
おカネのことでもありません



ここがポイント！ 現代では **お力ネは無から生まれています**

それを**Money Creation** (信用創造) と呼びます。銀行は返済能力 (供給能力) を認めて、通帳に〇〇〇万円と入力するだけ! おカネは無から生まれます。国債の利子は銀行サービス支える政府支出。日銀保証の地方債や政府貨幣 (硬貨) のように別の方法でもおカネは生まれます。

※ 無から生まれるお金(日本円)は国内の供給能力をもとに信用され使われます。 続きます ↗

01. お金とモノ・サービス 本当に必要なのは？



非常時には本当に必要なものが見えてきます。無人島に流され戻れなくなってしまった

A君とB君の会話で考えてみましょう。A君はどちらの頼み方をすればB君に手伝ってもらえるでしょうか？

A君

【発言1】日本円(お金)を支払うから料理を手伝ってほしい

【発言2】力仕事をするから料理を手伝ってほしい

B君

お金はこの島ではただの紙でしかないから、
力仕事をしてくれるなら手伝うよ 正解は【発言2】!

国同士の取引も

“モノ・サービス(財)を生み出す源”

「供給能力」によって
成り立っています。

供給能力の低い国は…輸入に頼り、海外収支（経常収支）は赤字、外貨不足、通貨安、物価高に…例えば外貨建ての国債で外貨得ておカネを何とかしてもモノ・サービス不足が続けば財政破綻、通貨暴落、ハイパーインフレへと悪化。

つまり、自国で供給出来る分しか、国民はモノ・サービスを得られないのです。

一方、日本は長年の高い供給能力のおかげで海外に資産まで持っています。

日本の現状(項目○、◎)と課題(項目02～)をそれぞれ見ていきましょう。

(参考)2020年の経常収支黒字額:17兆円/2020年末の日本の対外純資産:356兆円

財政破綻の心配のない自国通貨建て国債のみで資金調達が出来ている国は世界で日本含む数か国だけ

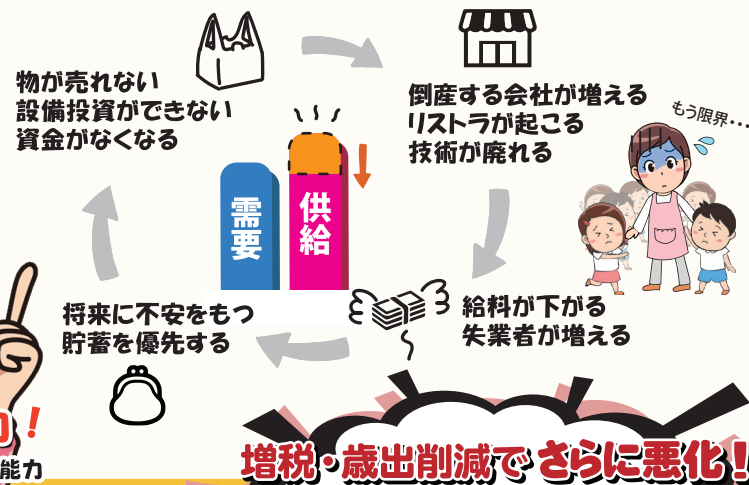
02. 使わないと本当の財源は減る



低迷期には
供給能力が
減っていく

本当の財源である供給能力は需要がなければ、徐々になくなっていきます。

ここに日本の問題があります。低迷期には将来不安から貯蓄を優先するような悪循環が起き、供給能力の破壊は、儲けにくく公共性の高い産業から起こっていきます。



それは、日本全体の供給能力！

「財(モノ・サービス)」を生み出す「源」=供給能力

増税・歳出削減でさらに悪化!